

平成25年度 長野県社会教育委員会議 議事概要

日時：平成25年7月10日（水）
午前10時00分～12時25分
場所：長野県庁8階教育委員会室

○出席委員 長田 正樹委員 小出 勉委員 鈴木 道郎委員
中條 智子委員 南沢 好恵委員 谷塚 光典委員
○欠席委員 木下 巨一委員 小林 文子委員 伴 美佐子委員

○県の出席委員

教育委員会	伊藤 学司教育長	
教学指導課 心の支援室	小林 史典課長補佐兼人権支援係長	
スポーツ課	小林 武広体育スポーツ振興係長	
次世代サポート課	北澤 潔青少年指導主事	
生涯学習推進センター	荒深 重徳所長	
文化財・生涯学習課	小野 光尚課長	大槻 寛課長補佐兼総務係長
	下條 伸彦生涯学習係長	大久保 憲一担当係長
	島田 千恵主事	原 勝人主任指導主事
	中原 敏主任指導主事	小池 千尋指導主事

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 自己紹介

4 議長選出 谷塚委員を議長に選出

5 議 事

(1) 平成25年度社会教育関係事業の概要について

【谷塚議長】

平成25年度社会教育関係事業の概要について、担当課から説明をお願いします。

【小野課長】 文化財・生涯学習課の事業について説明

【荒深所長】 生涯学習推進センターの事業について説明

【小林課長補佐】 教学指導課心の支援室の事業について説明

【小林係長】 スポーツ課の事業について説明

【谷塚議長】

質問などございましたら出していただきたいと思います。

【中條委員】

「信州型コミュニティースクール」についてお伺いします。図で示されていますが、もう少し詳しく説明をお願いします。それから、モデル事業として4市町村でしたか実施されるのでしょうか。それと、コーディネーターの養成に関してモデル市町村と関係するのでしょうか。また、どのようにコーディネーター養成講座を行うのでしょうか。

【小野課長】

本事業は学校と地域をつなぐということを考えておりまして、その中で核となる運営委員会を、学校関係者や地域の方に入っていていただけて考えていただきたいと思います。今まで防災教育の学校支援などをやってきたのですが、校長先生、教頭先生、先生方が直接地域の方を連れてきて取り組むということになっていたのですが、コーディネーターを置くことによって、当然市町村教育委員会も一緒にやらなければならないですし、コーディネーターの方に学校と地域との調整を行ったりボランティアの方を捜したりする、そういった制度を考えています。そういうことで、運営委員会の話し合いの場とキーパーソンであるコーディネーターの必置が、信州型コミュニティースクールという形であると考えています。

コーディネーターについては、今学校支援などを行っている市町村なり学校では、実際にコーディネーターがいらっしゃるところはあるのですが、支援する仕組みがあったとしてもコーディネーターがいないということもあるものですから、それをどう見つけるかということが一番問題です。県が見つけることもできないものですから、市町村教育委員会の方にお問い合わせの中でコーディネーターを置いていただければと考えています。県としてもコーディネーターの養成講座をやったり先進事例をお知らせしたりする中で、コーディネーターの配置について支援していきます。4市町村というのは国の補助の関係があるものですから、モデルについては調整しているところですが、成功事例などいい形で進めていける材料になればいいと思います。現実として補助金を使わなくても、実際やっていたらっしゃる例は、上田市の浦里小学校などにあります。そのような例はたくさんはないですが、知恵を合わせて皆さんにお示しすることで進めたいと思います。

【中條委員】

おっしゃる通りで、私もコーディネーター役が必要だと思っていますし、それをどのように行うかということが一番問題だと思いますけれど、本年度の事業として見つけたいですね。ですから、養成講座のようなものを県が本年度のうちに実施していただければと思います。市町村や学校とどのように合わすかということがあるかとは思いますが、現在そのような役割を各学校や地域で果たしていらっしゃる方がおられると思いますし、また、学校の管理職がお願いに行くなどいろいろな方法があると思いますが、コーディネーターが一番大事だと思いますので、何とか県の方から県民に情報を発信して養成講座みたいなものを、本年度のうちに実施していただければ結構前に進むと思っています。

【小野課長】

県としてもコーディネーターの研修はやる予定にしています。教育事務所が県内にありますけれど、東信教育事務所においてはコーディネーターの関係の方、市町村教育委員の方などに集まっただけ実際に開催しております。教育事務所を支えていくということもありますが、

県全体では生涯学習推進センターを使うなどしてやっていきたいと思っています。

【荒深所長】

8月6日、「地域で育てる学校サポートコーディネーター講座」を計画しております。ここでは是非コーディネーターの皆さんに来ていただきたいと思っています。けれども、一番の課題は市町村への周知が徹底しないということです。市町村教育委員会までは通知が行くのですが、そこから先がなかなかうまくいっていない。私どももお願いをしているのですが、首長部局の地域振興課といったところには是非お伝えいただいて、そこから周知をしていただきたいとお願いしているのですが、なかなかうまくいかないのが現状です。8月6日の講座への参加について委員の皆様からも声を掛けていただければと思います。

【中條委員】

今回8月6日の講座の話を説明していただいたのですが、昨年8月3日にコーディネーター養成講座があり、私も参加させていただきました。事例発表などもありました。1日だけの講座では地域で実際に動けるようなコーディネーターの養成講座にはならなかったと思います。去年もコーディネーター養成講座ですよっていわれたのですが、それが今年のもと同じかどうか分かりませんが、実際参加させていただき、そのように感じました。

【荒深所長】

私どもも、講座の回数を増やすことができればそれに越したことはないと思いますが、限られた予算、限られた人員の中で現実的には難しいものがあります。そういう意味ではそれを1つの契機にさせていただいて、是非市町村や教育事務所単位で講座を開設していただければありがたいと思います。今のご意見につきましては、きちんと受け止めさせていただいて今後にかかしていきたいと思っています。

【谷塚議長】

生涯学習推進センターの昨年の講座を見ますと、8月3日「笑顔が輝く学校と地域」ですとか、一昨年は12月に「地域と学校の共育ち」というのがありますが、本年度の講座の計画を見ますと、「学校サポートコーディネーター講座」とコーディネーターを養成すると銘打ったのは今年からだと思いますので、センターとしてもいかしていただきつつ、教育事務所単位で地域の方が参加しやすいものを検討いただければと思います。

【鈴木委員】

コミュニティースクールについて、市町村に周知できないという理由をお話いただいたのですが、コーディネーターの養成それ以前に、学校側が信州型コミュニティースクールを望んでいるのか、本当に受け入れようとしているか、理解しているか、そこに壁があるように感じています。そこで、学校が本当に望んでいるのであれば、学校やPTAなど地域がつながっているのですが、どうしても学校の運営というところには地域が入っていない所があります。学校が本当に望んでいるのであれば、学校の方からコーディネーターをお願いしたいという声を挙げていってもいいと思うのですが、そういうところは実際はどうなのでしょう。

【小野課長】

確かに学校は閉ざされているという声もありまして、校長先生教頭先生が熱心に学校と地域の連携を進めているところは進んでいるのですが、確かに全ての皆さんに理解していただいているかという点で不十分だと思っています。これを進めていく上では当然市町村の方などの理解

と協力が必要ですし、学校が課題解決を自分でできるかというところではないものから、やはり学校から地域に支援してもらいたいことを申し出るということも必要だと思っています。市町村長からも先生が地域を知らなすぎるとか先生が学校のあるところに住んでくれないとか、そういう意見が出されていて、研修でやるだけではだめだと思しますので、市町村教育委員会や学校に出かけていってお話をしてみたいと思いますし、教育事務所の指導主事の先生は学校訪問を行っていますので、校長先生や教頭先生にお話しするだけではなくてすべての先生方に啓発をしていくということが大事だと思います。

【伊藤教育長】

今でも学校のことは自分たちが責任持ってやるからという意識が強かったと思います。先生方も責任持って頑張ってきたということは、尊いことではあるのですが、そういうことでは様々な課題の解決はできなくなってきている、それは社会の価値観が多様化していますし、保護者の考えも様々ですし、地域でしっかりとサポートができるような状況もたくさん出てきているからであり、学校をどのように後押しするかという観点が出てきています。市町村の教育長さんとか校長先生と話をすると大部意識が変わりつつあるなと感じますが、まだ皆さんの意識はそうでもないということで、このような会議を通じて地域に助けを求めたいということは、決して学校ができないから恥ずかしいことなんだという意識を変えるということをやっていますし、もう一つは、初期の段階で学校は地域と連携し地域に開いていくと、学校では最初の段階で大変になる、余分な仕事が増える部分があって躊躇していることがあるのですが、そこが今回この事業を通じて最初の段階は大変なだけけれども、それを越えるとむしろ地域の方々の協力を頂くことによって、これまで学校の先生方が得意でなかったこと背負ってやっていたことを地域の力を頂いて楽になっていく、それを創り示していくことによって心の抵抗感を少しずつ取り除いていきたい、そういう意味でいいモデルを示していただきながら広めていきたい。同時に教員研修でも責任持ってしっかり地域連携をいかにするかということに取り組んでいきたいと思っています。

【谷塚議長】

長野県は比較的コミュニティースクールの設置数が全国的にも少ないわけです。全国の社会教育委員の大会に出ましても東京の三鷹が、かなり先進的に取り組んでいると思います。やはり、いくつかのタイプに分かれている。制度を作らなくてももう地域が取り組んでいるところもあれば、逆に制度を作ることによって増えていくところもある、制度を作ってもうまくいかない所もある。こういう所がいいところを紹介していただければ幸いです。

【伊藤教育長】

コミュニティースクールという観点でいえば西の京都東の三鷹というのがあるのですが、三鷹の方はこういうPTAや支援本部の方々とまさに熟議形式で地域の子ども達をどうすればいいのか学校に対する注文だけではなくて、この地域の子どもに対して学校はこうするし先生にはこうしてもらおうし地域ではこうするし家庭ではこうする、つまり地域でも自分のこととして捉えて改善をしながら、学校にも頑張ってもらおう。例えば夏休み中とかですね、方針と違うことをやってしまったら全く成果は出ないというような情報を介して自分の活動のあり方を反省もしながら行こうということを紙に書いて残して発表することによって、我々が目指しているような単なる学校支援でもないし地域作りだけでもないし、学校運営に口を出すだけでもないというような取組がございます。コーディネーター養成において一方的な情報を提供してもなかなか十分な力は臨めないのですが、先行している様々なコーディネーターの方々に入っただきながらワールドカフェ形式や熟議形式で情報交換を行っています。成功している人

もきれいに成功しているわけではなく挫折があったり失敗があったり綱引きがあったりしながらも学校にあったやり方を自分で発信してきたという事例がたくさんあります。県内外での成功しているコーディネーターの方の指導を仰ぎながらコーディネーターの卵であるとかコーディネーターとして活躍する資質を持った方々と一緒に意見交換をしてもらい、そういうことを考えて行かなければいけないかなと考えています。全国にはおもしろいコーディネーターの方がいらっしやいますのでその方に来ていただいて失敗談成功談をお聞きできればいいと思っております。

【谷塚議長】

中教審の生重委員も東京で活躍されているコーディネーターの1人だと認識しております。

【鈴木委員】

社会教育という立場で話をさせてもらっているのですが、学校教育と社会教育が一緒になって話し合うべきではないかと思うのですが、そういう場はないのでしょうか。

【伊藤教育長】

話し合っていく場というよりは、教育委員会として大きな目玉施策として、地域の教育とか社会教育の観点だとかやっただいておりますけども、ある種信州教育再建の切り札というのが今回の信州型コミュニティスクールで、1つの大きなシンボル施策でございまして、地域の力を活用しながら学校自身を変えていくということ、私どもも学校教育関係者に相当働きかけをしています。子ども目線で見れば学校教育も社会教育も関係ない、行政の縦割りとかも関係ない。この事業が成功するように、これから県内各地に出向いて市町村の教育長さんと意見交換をさせていただくのですが、その中でこの事業に対する理解を深めていただきたいと思っておりますし、一緒にテーブルに着くような機会をつくっていきたいと思います。

【谷塚議長】

先ほど中條委員さんから共生というお話が出ていました。今教育長さんからは全国によいコーディネーター、よい実践があるということをお聞きしました。社会教育委員の関東甲信越静の大会が今年度栃木県で、あるいは全国の大会が三重県で開催されます。長野県内の市町村の社会教育委員を含めて、皆さん方も三重あるいは栃木に行くと思うのですが、これが中核施策という1つの分科会に集中的に行きましょうという考えもありますし、いくつかの分科会に分散して参加して後で、持ち寄ってそれぞれの市町村の社会教育施策にいかすという場合もあるかもしれません。学校と地域の連携の分科会に積極的に出て、いい情報を収集して、よい方がいれば講演会にお呼びしたりワークショップの方式でお招きしたりするのもありかなと思いつながら伺っていました。

平成25年度社会教育関係事業の概要についての質疑は、ここまでに致します。

(2)に平成25年度社会教育振興事業補助金について

【谷塚議長】

続きまして(2)平成25年度社会教育振興事業補助金についてご説明願います。

【大久保担当係長】

平成25年度社会教育振興事業補助金について説明

【谷塚議長】

ご質問ご意見ありましたらお願いします。なければ社会教育振興事業補助金についてお認め頂いたということで、よろしくをお願いします。

6 意見交換 「社会教育の推進における県の役割について」

【谷塚議長】

次に、「社会教育の推進における県の役割について」意見交換していきたいと思います。伊藤教育長の御挨拶にありましたように、皆さんはそれぞれの団体や地域でご活躍されている方々ですので、それぞれのご活動や経験に基づいて長野県社会教育の推進において県がどのような役割を果たしていかなければいけないかということに関しましてご提案ご意見を頂きたいと思います。

今日の資料の中に長野県の第2次教育振興基本計画があります。この計画がどういう理由でつくられたかということ、平成18年に教育基本法が改正されて施行されましたが、その中で政府は教育に関する基本計画を定めるとありますし、地方公共団体、県も定めなければならないということがありました。これに基づいて第1期の計画が平成20年度から24年、そして第2期の計画がこの平成25年からという形で作られてきました。国の教育振興基本計画の中で社会教育に関係するのは2箇所。「社会を担う力の養成」、「絆作りや地域のコミュニティーづくり」あたりが重要になってくるのかなと思います。国の計画は、4つのビジョン8つのミッションになっているんですが、8つのミッションのうち2つが社会教育に関係しています。1つ目の「社会のちからの養成」と致しましては、自立・協働・創造に向けた力の習得、これは生涯全体を通じたものです。2つ目は「学校内外における様々な体験活動や読書活動の推進ですとか、絆作り・活力あるコミュニティーの形成」このあたりが国の方の教育振興基本計画に示されているものであります。

それに基づいて地方公共団体である長野県でも教育振興基本計画を立てて推進していくということになります。県の施策体系図として1から7までありますけど、ここで県はどのような役割をしているのかと考えたときに、教育基本法に戻るんですけど、教育基本法において社会教育が規定されています。社会の要請に応じてやっていく、あるいは社会教育の施設を設置して社会教育の振興に努めるということが定められていますし、あるいは行政の役割として基本に関する施策を策定する、あるいは必要な財政上の予算を講じるということが規定されています。そうすると県の役割はどのようなものか、何を期待するのかということが今日の話になってきます。

付箋紙を用意しました。それで、具体的にこういう役割が期待される、ただお金を用意しろとか施設を作れとかいうと、ちょっと抽象的になるので具体的にこういう活動をしたいから県にはこういうことをお願いしたいというものを付箋紙に書いていただき協議に入っていきたいと思います。

それでは委員の皆様の経験を踏まえて、県の役割として、どういうことを期待したいかというものを挙げていただきたいと存じます。

それでは長田委員さんの方からご発言頂きますでしょうか。

【長田委員】

支援員として学校で車いすで生活している4年生の児童の支援を行っております。武石小学校は、体験活動や読み聞かせの教育ボランティアをはじめ、カルタや昔遊びなど伝統的な遊びを教えてください地域の方々、また、安全を見守る武石見守り隊という方々、地元で子どもや

孫達に安全でおいしい地元の野菜を食べてもらいたいという願いで本校の給食の材料を提供する方々があります。本校の給食は本当においしいです。私が学校にいて思ったことは、地域の人たちは本当に子どもが大好きで名前を知らないという大人はいないと思います。そのぐらい子ども達が好きで、よく道ですれ違えばおはようと言ったり挨拶もきちんとしています。ですので、本校の子ども達には、非行という話は一切聞いたことがありません。犯罪もありません。経験からいいますと、学校教育において生きる力を育てるためには、道徳教育とかキャリア教育を通じて、心豊かな自立した人材を育てる必要があると思います。それには地域や家庭、学校が円滑な団結によって、子どもの生きた勉強、生きる力を推進していかなければならないと思いました。子ども達がそこで経験したことというのは、大人になったときに常識になると思います。宝となる子どもについて、家庭もそうなんですが地域と学校がみんな協力していくことが必要であると思います。

【谷塚議長】

県に何を期待しますか。

【長田委員】

やはり県には信州型コミュニティースクールを県民に周知してほしいです。PRしていかないと知らない人が圧倒的に多いと思います。県立図書館ですとか県立歴史館も同様で、知らない人が多いです。全ての人に分かるように具体的なことを情報発信していかなければならないと思いました。

【南沢委員】

私たちPTAとか一保護者として何かをやろうというときに、県の方に何かを言うことはあまりありません。市の教育委員会なりをお願いにいたりとかお話を聞きに行ったりはしますが、県になにかいうということはあまりありません。今私たちが地元でやっている活動の取組、私たちの活動というところでは、県で子ども達の生きる力ということに本当に力を入れていただいていると思うのですが、別の会議に参加したおり、県では四つ葉の共育クローバープランを、もう一度改めて力を入れていきたいのだという話を聞きまして、今日もその話が出るのかと思いましたが今日はそこには触れられませんでした。県では何かこうビジョンとかたくさんやらなければいけないことがあり、事業もたくさんありますが、今年はここに力を入れているというものがあって、それが周知されるといいのではないかなと思いました。

県のビジョン、計画ももちろんなんですけど、一般の地域の保護者ですと、四つ葉のクローバープランかすごく分かりやすくよかったと思いました。

資料を読ませていただいたときに、少年自然の家とか青年の家とか県の教育の施設がこんなにあったんだということをお勉強不足で申し訳ないのですが知りました。国立の施設、地元にある市の施設は分かりますし、県の施設では県立歴史館は地元なので分かっています。それと、県立図書館も分かりますが、須坂青年の家ですとか望月少年自然の家ですとかいい施設だとは思いますが、知らなかったのも事実です。福島の方をリフレッシュツアーに呼ぼうという話がありまして格安な施設を使いたいといういろんな施設を当たったのですが、その時にも県の施設の名前は出て来なかったのです。すごくもったいないと思います。

【小出委員】

社会教育に携わった者として、私たちが施策実行できる案を考えなければいけないわけで、この会に対し私は非常に期待を持っていて、この会でやらなければいけない長野県社会教育をどうするかということについてここで話し合っていたらいいわけですが、年に一回の会合では

どうも期待できない、予算的に難しいのならば本当に何回か話ができる何人かの人で是非話をする機会をつくるのが一番いい。この会も二時間の会で、ほとんどが説明で終わってしまいます。私は何回かでているので分かりますが、初めて出られた方は何も分からないのではと思うわけです。これはこの前も申し上げました。そのところを考えていただきたい。

先ほど信州型コミュニティースクール事業ということで話がありましたが、今の小中学校の先生方を見ていて非常に忙しくて、先生方は教育以外のことをやっているわけです。その一つが親との問題、地域社会との問題、悪い意味じゃなくていいわけですが、そういうことまで考えると私は第三の教育行政といわれるようなことを考えていかなければいけないんじゃないか。信州型コミュニティースクールが出てきたことは非常に素晴らしいことで、是非成功させていただきたい、できるだけ協力したいと思います。今の小中学校の先生方、だいたい夜九時までに帰る先生が何人いるかという実情を皆様分かっておられますか。私は娘が小学校と中学校で教員をやっています。中学校にいる娘はだいたい10時に帰るのはざらなのです。

不祥事等の問題では確かに先生方に問題があったりするのですが、教育委員会もその対応に追われ、処罰とかに終始している。学校では先生方は本当に児童生徒のことを、勉強を教えることに専念したいのですができない。地域や親との対応に追われている。予算を取るとかおらないとか別としまして、先生の多忙の解消などといったことをやらないと今の学校は持たないと思っています。そういうことに対して、私も社会教育委員が話を進めていかなければいけないんじゃないかと思います。そういうことを是非検討していただきたい。理想論かもしれませんが、現実を踏まえた上でそのような対策を打ち出すのがこの会の使命ではないかと思えます。

【中條委員】

そこまでこの会でできるものか分かりませんが、学校に関する意見と少しづれませんが、私の体験を踏まえてということですので、婦人会の活動に関して、今の現状をお話ししたいと思います。先ほど、教育事務所単位での取組という考えもあるとお話があったんですが、以前教育事務所単位だったと思いますが婦人教育に関する事業がありました。私も婦人会に入っておりましたので、更埴の方から推薦を頂きまして二年間その会に参加しました。南沢委員はぜんぜん知らなかったとおっしゃいましたが、県の施設ですので、須坂青年の家、望月少年自然の家、廃所になりました松本、小諸の青年の家全てを使わせていただいて二泊三日、一泊二日の事業に参加させていただきました。それが私の今に至る社会教育であったかな、子どもの支援のはじまりであったかなと思っています。その当時主婦でおりましたので子どもが高校、中学校、小学校と三人おりました。私が家族を残して自分でどこかへ行って宿泊をするということはそれまで一度もありませんでした。その時に婦人会の役員をしておりまして家族にこういうふうには私が外泊をして研修する機会があるんだけどどうしようかと話したら、一番行ってこいといったのが義父でした。夫も「行くさあ」と言ってくれ、子ども達三人とも全部協力するからということで学習させていただいてそれが社会教育の原点だったと思っています。婦人会の活動と一緒に、社会教育なるものができたかなとちょっと私としてはオーバーに捉えています。

そして、今いろいろなところで事業を進めていますが、必ず出てくるのが子どものことよりは親の教育だ、親を育てなければいけないということです。今の若い親を育てたのは自分たちだという落ちも付くんですけど、それはまあ謙遜ということで、やっぱり親に対する教育といったら大変おこがましいですが、親を育てるということを前提にして考えていただきたいと思えます。それでは県としてなにができるかということですが、次世代サポート課ではいろいろなところで事業をしていますし、民間でも乳幼児を育てるところから大人のサポートといろいろあります。各市町村でもいわゆる子育て支援というものをやっております。民間でも出産から産婦人科を通して様々な事業をやっている。そのような事業を拾ってみることは難し

いでしょうか。そういう元々の事業をしているところの拡充支援というものが1つできるかなと思います。そこに予算を付けてみるとできると思いますし、もう一つは、各他の県でもやっていますが、家庭教育、親になるための手本的な手引きみたいなものをつくってみようという会議を持ってそのような方向で会議を進めていくということは、県のビジョンの1つになると思います。そういう二つの親を育てる視点を県の社会教育としてできるかなと思提案します。

【鈴木委員】

私ども子どもに関わることはたくさんあるのですが、子ども達には人間力を養うということが一番だと思います。人として力を付けていく一番のものは教科書とかそういうハードのようなものではなくて大人の姿です。子どもは親をみて鏡のように育っていくのですが、親もしくはそれ以上に影響力のあるのが学校の先生だと思います。私は愛知県で生まれ育ったものですから、長野県に来て学校の先生達のシステムに独特なものがあると感じています。それは1人の先生が複数年にわたって担任をされるということです。私の子どもの学校では二年ほど前は六年間同じ担任だったこともあります。今でも少なくとも三年から四年担任をします。これは熱心に自分の公教育を子ども達に伝えるという伝統から来られているのだとは思いますが、県外の人にそういう話をすると、そんなことが行われているのはすごいねと言われます。普通は単年度で変わられるそうです。特に長野県は、少子化になってきて学級はずっと同じクラスでいくと言われます。クラスも同じ先生も同じ、ずっと同じ環境で育っていく状況があるようです。それは、その子にあった先生ならラッキーですが、それは違うと思うのです。人間だから合う合わないのは当然です。いろいろな大人に出会うことが大事だと思うのです。親はかえられないですけど、地域の大人や担任の先生とかはいろいろな先生に担任を持ってもらうことがその子の力になると思うのです。いろいろな大人を知ることが大事なのです。それが担任が複数年になると、辛い思いをする期間も長いでしょうし、逆にいい思いをした子が中学校に上がると、その時点でもし自分に合わない人に出会ったときに耐えられない。すぐくいじめ不登校の問題につながっていると思います。これは子ども達からの声です。「ずっと同じ三年間なんだ」という声です。それが長野県の教育であり伝統文化であるということでは崩れないということであるならば、私たち社会教育の立場で、いろいろ外部の大人が子ども達に、いろいろな大人がいるということをアピールしていかなければならないと思うのです。

そういう意味で、私は地域の放課後子ども教室だとか子どもの居場所づくりだとかいろいろなところで関わっていくのですが、その中で、自然学校に関わって20年になりますが、かなりそういうことで子どもを支援してきました。なので、やはり学校教育の中に踏み込んでいくことは難しいのですが、信州型コミュニティスクールが今回始まっていくということで、学校の中で確立された伝統は素晴らしいものがあると思うのですが、そういったところでできるだけ大人として子どもを見るんだという視点で社会教育を、学校も社会教育の1つなんだという視点を持って行ければと思います。

次に、県教委でいろいろな計画をものすごくたくさん策定されています。それぞれは素晴らしいことをやっているのですが、みんな縦にしか見えないのです。前にも提案させていただきましたが、事業全体がわかるマップのようなものをつくるということが必要です。自分はこんな所に興味があるというところから入ると、あなたが求めるこういうことが行われていますよ。さらに進めていけばもっとこういうものがありますというようなマップのようなものがあればと思います。これにより県民が自分がどこに行ったら自分の居場所が見つかるかと学びたいことが見つかると思うのです。なんかいろいろな事業を知っている人は知っているが、知らない人はまったく知らないというのが現状だと思うのです。そういう状況にならないために、文章ではなく目に見える形で、小さなお子さんを持っているご家庭においてはこんなものがありますよ、小学生を持っておられる方にはこんなものがありますよ、おじいちゃんおばあちゃん

だったらこんなありがたいものがありますと1つのマップのような形で、県がやっている事業を1つにできるとよいと思います。今起こっている問題というのは、今日のことでなくて、小さな子どもの頃にどのような環境で育ったかということが今になって問題になって出てくるわけです。未就園児未就学児に関する社会教育・生涯教育ということです。保健福祉の問題だけになっている現状もあります。子どものそのころからの教育というのは生涯教育の中に入ってこなければいけないです。

松川青年の家で森のガイダンスなどをやらせていただいています。信州で育った子ども達が、自然に対する感性が育っていないというのは正直なところで、もしできれば社会教育生涯教育の中で、そういう生まれてからあるいは、生まれる前からかもしれないが、人間としての全ての対象の中で、できれば小さな子ども達やお母さんに対して事業的なものを盛り込んでいただけると将来が見えるのではないかと思います。

【谷塚議長】

今出していただきました意見を、私なりに今日のテーマである県の役割ということで少し箇条書き的にまとめてみました。いくつか分類できると思うのですが、まずは、学校や子どもを中心として学校と地域そして家庭と連携をする一因としてコミュニティースクール。家庭教育も含めて実際に行っている主体は市町村ですが、その事業をやりやすい体制をつくるということもありました。県はこの社会教育委員会議の役割をもっと明確にする。あるいは、県の基本計画をもっと伝わりやすくするなどの提案が出て参りました。

小出委員さんが2つ目の続きをお話しただければと思います。

【小出委員】

2つお願いしたいことがございます。1つは、子ども達が小さいときに自然に体験しなければいけない危険に対するとっさの反応であるとか、ものを見てこれは壊れるということであるとかの体験が不足していることが、非常に問題であるといわれています。子ども達には口で言ってもだめであって、体を動かし体験させて、その中でともかく生きる力を自然の中でしっかり身に付けさせるような方法を長野県はとることが大切で、それをやるのが社会教育の分野であると思います。

もう1つは、携帯電話に関することで現場では非常に問題が出てきています。これも学校だけではだめですので、是非このようなことも県の社会教育委員としてそれに対する施策なり、どういうことをしたらいいのかということをお願ひしたいと思っています。ご報告申し上げたいのですが、上伊那には他の地区にない社会教育関係者懇談会という会議がございます。これは公民館関係、教育事務所関係、教育委員会関係の3者が持ち回りで年に1回懇談会を開いております。携帯電話の問題を3年ほどやって非常に大きな反響を受けました。携帯電話の問題に対しては県でもやっているわけですが、何とか県としてもしっかりしたものを出していかないと、大変じゃないかということをお願ひしています。

【谷塚議長】

体験活動の話も出てきました。県の施設、特に少年自然の家や青年の家を含めたところの周知の話も出ました。施設のことに関して県に期待していたが、できないので自分でやってしまったという話がありましたが、施設についてご意見がありますでしょうか。

【鈴木委員】

正直に言って、県に期待する部分は、どうしても施設とかハードだとか補助をしていただくとかそういうものばかりになってしまうのですが、私たちみたいな民間の体験活動をやっ

いる人たちには、それだけで食べていける人間はほとんどいないのです。ただ、その人たちは、すごくいいものをもっています、私も県の施設に関わらせていただいていますけど、申し訳ないですが中身に関しては絶対に負けない自信があります。なぜかというところでちゃんとお金を頂いているからです。けれども、それで生活できないというのが現状なわけです。特に長野県の方々は、子どもの教育にお金を出すには厳しい方が多くて、同じキャンプをするにしても、青年の家でキャンプをすると1泊1,000円2,000円ですが、私たちがすると1泊1万円になるのです。中身は絶対負けないのですがやはりそこで差が出る。どういう子がキャンプに来るのかという、東京や名古屋の子が来る。求めているものがぜんぜん違ってたりするのです。県の施設がやっているのが悪い訳ではないのです。それはそれでいいですが、私たちみたいな民間がやっている施設では、税金で人を雇ってやってもらうというより、体験活動のノウハウを持っている人たちが長野県にはすごく多いです。昨年秋に、白馬で信州アウトドアフェスティバルというのを開催させてもらいました。自然体験活動の指導者を全国から集めてそういうフォーラムをやったのですけれども、結果的に出たのは先ほど小出委員がおっしゃったように、とにかく今子ども達が外で遊んでいない、外でもっと子ども達を遊ぶ仕組みを作ろうということで、私たちはプロですからきっかけをつくらうといろいろなところでそれをやっています。そうところで子ども達はいっぱい遊ぶのです。遊びを知って、毎年来る子は地元の子ではなく県外の子子ども達です。その辺長野県の子子ども達かそういうところに出やすくなるというか、出てほしいなという思いです。そのような中で、私たち指導員が信州外遊びネットワークというものをつくりました。9月の終わりにフォーラムをするのですが、長野県の子子ども達は県外から見たときに、みんな外で遊んでいるという姿を描かれています。しかし、今は本当に外で遊ばなくなってしまうています。スポーツのことも出てきましたが、一番の原点は小さい頃にやった遊びだと思ふのです。小出委員がおっしゃったように、子ども達は外で遊ばなくなりました。それは、中條委員がおっしゃったように親の問題もあるかと思いますが、そういう機会をつくるために、民間に埋もれているそういう人たちを引き出すような仕組みづくりや、補助などの応援を県でしていただけるとありがたいです。県自身でやるのはすごく大変なことだと思うので、官民一体になってそういうことを進められればよいと思います。

【谷塚議長】

今の体験活動に関して、婦人会、PTAの立場でいかがでしょうか。

【南沢委員】

保護者として、もちろん同じことを感じています。同じ保護者を見たときに体験活動などできない状況もたくさんあるのですが、保護者から保護者へはやはり言えないんです。お金をたくさん出してそういうところに入れられる人は、わりと自分の体も動かすと思ふのです。だからそこが難しいです。保護者自身が学習するのも同じで、ある程度の時間に余裕があり、経済的にも余裕がある人たちでないといけない。民間でお金を出してと言うこともできない。そうすると児童館ですとか地区の子子ども会とかにお世話になっている部分が多いと思ふです。ここでは地域の方々に助けていただいていると感じています。

【中條委員】

木下委員が欠席なので、公民館を充実させていくというようなお話はいただけませんでした。長野県は全国でも公民館の数が一番多いと資料の中にも書いてありましたが、ある公民館長さんとお話ししたところでは、本当に公民館も困っちゃうんです、何をやればいいのかということの中で、公民館がカルチャーセンターになっているというのが1つ問題ですとお話がありました。今まで私が知っているような地域や教育の課題に関する教室を公民館で開いても人

が集まらないというのです。結果、カルチャーセンターのような催しが多くなってしまって、本来の公民館活動になっていないことがちょっと見受けられます。そうした現状も県民の声として聞いていただければと思います。

小さいときからの外遊びや体験遊びというのはすごく大事なことですけども、今の時代そういう経験をするのは大事だと思っています。これからの時代の子育てに求められるのは、日常の祖父母の力をお借りした日常の生活の中で、農も工も商も全て含めた私たちが普段している生活の中でできていないふれあいが大切であり、地域の公民館活動の中にあるのではないかと思っています。いろいろなことができていない子ども達に、いろいろな大人と出会うことが大切といわれましたけれども、そういった大人だけではなくて、地域の祖父母も含めている大人の人たちがいる普通の長野県の農村の生活の中に、どうやって数日間とか1週間とか触れ合えることができるか、できたら長野県の子育ての財産になると思います。

【鈴木委員】

最終的な姿は習慣化して子どもたちが地域で外でも遊んでいる姿だと思います。自然にそれが習慣化して当たり前に行える。昔はそうだったと思うのですが、今はできていない。それを引き戻すためにはやはり何らかの力を加えないと難しいのではないかなという思いです。一昨日、次世代サポート課の会議があって、通学合宿という活動を進めると言うのですが、こういった姿を少し取り戻していこうという取組がはじまっています。そうしたところをもっともって県で応援していただきたいと思っています。

【谷塚議長】

今日のテーマとしましては、「社会教育の推進における県の役割について」ということで意見を出していただくようお願いをしました。その中で途中でもまとめましたが、やはり学校と地域の連携をどのように促進するのか、その機会をどのように確保するか、という話もありました。後半は、子どもの体験活動あるいは地域での活動の話になってきました。県に期待することとしては、緊縮財政でお金を付けてくれという話ではなくて地域の市町村が主体で行っている、あるいは鈴木委員のように民間で行っているそういう社会教育実践というものがあるので、そういうものを上手に県として支えていく、その時にももちろん財政的な支援も必要になってくる場合もありますけれども、そういう機会があるということ、信州型コミュニティースクールにしても体験活動にしても、そういうことをやっているということを知ってもらえないといけないという話が出ました。生涯学習推進センターでのデータベースは事業仕分けでなくなった形になっていますけれども、地域の人材はいる、こういう活動は行っているということ、うまく県民にあるいは子ども達に直接伝えていく機会を県としてもつくって行って、いいことをやっているのをみんなに知ってもらい、参加してもらい、あるいはうちの子も参加させたいという場をつくっていただければと思います。また、うちのおじいちゃんおばあちゃんの力をいかす場がある、もっと共有できる場所があるのではないかというご意見もいただきました。

私は、大学で教員養成という立場でいます。今日配られた資料の中でも生涯学習推進プログラムで「地域と共にある学校づくり」を進めていますという資料が出ていて、今年5月に4年生全員に配布させていただきました。また、信濃の国が県歌になっていたという背景は、元々は信州大学教育学部附属長野小学校の校歌であった「信濃の国」を、昔教員が全県に散らばって行って歌われていて「信濃の国」が広がっていったという背景があります。やはり、大学生、教員を選んだ学生が県下に散らばっていくということを踏まえると、大学生に社会教育について語るという機会がなかなか少ないのですけれども、社会教育の必要性あるいは家庭と

地域との連携ということ、学生に伝えていくことが私ができることであり、しっかり学生に伝えていかなければいけないと思いつながらご発表を聞いておりました。

最後、教育長、今日の話し合いを聞いていかがでしょうか。

【伊藤教育長】

長時間にわたり議論いただきありがとうございました。会の持ち方が行き届かないところがありまして、後半の意見をもっと聞かなければいけなかったと強い反省を持っております。

社会教育に関しては、2点ものすごく悩んでいます。1つは、社会教育行政における県の役割ということで、国は制度を作りそれを支援する、市町村はそれを実施するという中で、県の行う社会教育行政は何をするのか、長野県だけではなくて多くの県で悩みを持っています。もっとも大阪府のように事業仕分けになりやすい分野になっていることも事実であります。社会教育の周辺ということも今回言われましたし、社会教育というのは何か、今日社会教育は何をすべきなのかと様々の方のご意見に耳を傾けながら、今一度社会教育行政のあり方を考えないといけない時期に来ていると思いつ持ちながら今日出席させていただきました。非常に貴重なご意見を頂戴いたしました。

もう1つ悩ましいことは、私どもの説明もそうだったので、委員のご発言もそうだったからなんですけども、学校や子ども達を取り巻く問題に意見が集中してしまったことです。社会教育というのは大人も含めて、全ての世代の学校以外の社会教育ということでございます。そういう意味では、子どもには皆さん関心があり、施策としても中心に据えられることがあります。先ほどもカルチャーセンター化の公民館の話もありましたが、公民館をつくったときの役割というものに対して、今の社会教育はどうなっているかということを含めながら、絆作りやコミュニティーの形成というのが大きな方針で国も打ち出しているのですけれども、そこにおける大人の社会教育というようなものに対して、どのようなアプローチを行政はとっていくべきなのかというようなことに、もう1つの大きな関心事がございます。

ご指摘の通り、我々の会議の持ち方を含めて考えなければいけないのですが、社会教育行政がどうあるべきか非常に悩みながら考え、そして、どこかにヒントがあれば施策につなげていきたいと思いつているところです。頂いた意見ももちろんですが、こういった会議でどういったようなことが財政でできるか、予算の制約もあつて難しいのですが、様々な委員の意見を頂戴しながら、県としてどのように持っていくか考えて参りたいと思いつます。

長時間に渡りまして、貴重なご意見を頂きまして大変ありがとうございました。

【谷塚議長】

教育長ありがとうございました。私も今日の議論は子どもの方に偏つたなと気になりつつ話をまとめてしまったんですが、第2期教育振興基本計画に戻りますが、今日は特に子ども達に対してのところに重きが置かれたのですが、絆作りとか地域のコミュニティーづくりも今回国の政策でも重視されていますので、来年の会議では、地域の中でコミュニティーをどう形成していくか、どういう事業が行われて、こういう施策が必要だとか、このあたりの話で意見交換できればと思いつます。今日はお休みでした公民館の木下委員、学校としての小林委員さんのお考えをお聞きしながら、コミュニティーをどうつくっていくのかということは今後検討できればと思いつます。そのあたりを各委員の皆様も各地域でご活躍されながら見てきていただければと思いつます。

それでは意見交換を終わりにさせていただきます。

7 諸連絡

【原主任指導主事】 関東甲信越静社会教育研究大会について（11/14～11/15）及び
長野県社会教育研究大会について（9/18）への参加について

8 閉 会